

○主な意見と対応事項一覧

資料

	地方創生会議や行政常任委員会の意見	担当課	対応
P17	「農産物の成り立ち」は「農産物の生産品質・管理」のほうが分かりやすいのでは。	水産農林課	「農産物の生産品質・管理」に修正しました。
	「農的関係人口」は「農業関連人口」のほうが分かりやすいのでは。	水産農林課	「農業関連人口」に修正しました。
	週末兼業農家の推進など尾鷲独特の施策があったほうが良いのではないかと。	水産農林課	農業従事者の確保の中に「近年、週末などに都市部からの耕作や収穫などの農業体験を行う取り組みなどが増えつつあり、こうした」と追記しました
	耕作放棄地の拡大を防ぐ、だけではなく、拡大を防ぎ利活用を支援するとか推進する。などと前向きな表現で書けないか。	水産農林課	「耕作放棄地の拡大を防ぎ利活用を支援します。」と修正しました。
P17～	カキ養殖やブルーベリー栽培など新しいパートナーづくりとか個々の事業者に対する支援について、もっと具体的に書くことを検討してほしい。	水産農林課	ご指摘の内容について、直接的な名称の記載はしていないが、その旨は理解した上で事業者をイメージし計画については記載をしています。
p18	現況の耕作地面積を書いて、その下に何%になるかを記載しては。	水産農林課	耕地面積を記載しました。
P19	マーケット調査と出てくるが市が行っているのか誰が行うのかを記載するとわかりやすいのではないかと。	水産農林課	「農業者、農協、小売り店などからのマーケット調査等の情報」と修正しました。
	KPIで鳥獣捕獲頭数を被害報告件数などに改められないか。	水産農林課	尾鷲市鳥獣被害防止計画において過去の被害と捕獲実績から設定しており、その旨記載しました。
	生産地での農業体験とウィズコロナのICTとは矛盾、整理して書いてもらった方が良い。	水産農林課	整理して修正しました。
P21	( ) 書きで三重県農林水産支援センターを。	水産農林課	追記しました。
P22	KPI森林環境譲与税による団地化とあるが、活用森林面積を何%に当たるかを追加記載できないか	水産農林課	民間所有人工林の総面積を記載しました。
P23	KPI市有林材の搬出量は、全体の何%に当たるのか。	水産農林課	KPI自体を「市有林の管理面積」に変更し、市有経済林の面積を記載しました。
P26	アオリイカ産卵床5年経っても数が変わらないような、そういうものを指標とする必要があるのか検討を。	水産農林課	削除しました。
	調理体験のクラスは市内に何クラスあるのか。全体の数字を記載して	水産農林課	計9クラスと説明欄に記載しました。
P28	協議会を発足させることを、スケジュールに入れる必要があるのではないかと。	商工観光課	スケジュールに追加しました。
	人材育成については、セミナーだけか。	商工観光課	「個別指導」を追記しました。
P30	まずは三重県の中勢地域や北勢地域の積極的な販路開拓ということに記載したほうが良いのでは。	商工観光課	「県内北・中勢部や」と追記しました。
	地域産業の活性化を推進します。を活性化に寄与しますに、地域の活性化に繋がります。を支援しますに変えるべきでは。	商工観光課	「支援します。」と修正しました。
P33	スケジュールは具体的項目に落とせないか	政策調整課	スケジュールの内容を修正しました。
P34	KPIに企業支援件数や交流の場創出件数を入れられないか	政策調整課	起業支援件数は、地域おこし協力隊員を通じての起業数（コミュニティビジネスの事業化）で現在のKPIと同様であり、交流の場については、KPIの数値で表すような例えば開催数であったりグループ数みたいなものを想定しておらず、必要に応じて随時交流が出来るよう進めていきます。
P36	「移住スタイルが多様化している」がわかりづらい。具体的に書いてほしい。	政策調整課	「テレワークやワーケーション等、時代の変化に応じた柔軟な働き方を実現するために」と追記しました。
P35	定住移住するために就職のことも書いていただければと思う。	政策調整課	P33に記載しています。
	33,36,37ページ、34,40ページはわかりにくいのでまとめられないか。	政策調整課	基本目標1に付随する働くための受入態勢やサポートであったり趣旨とするものと、基本目標2に付随する繋がりや移住するきっかけづくりというところを趣旨として整理しています。体系的には国の第2期総合戦略を参考にしています。
P39	クラウドソーシングの実施は「関係案内所とともに行う実施事業数」などと明記してほしい。	政策調整課	「NPOとともに行う実施事業数」と追記しました。
P40	外部人材との交流会の意味が分からない。市、NPO、地域、移住者などとともに行う関係案内所が実施事業として行う交流会イベントなどと明記してほしい。	政策調整課	「市、NPO、地域、移住者などとともに行う関係案内所が実施事業として行う交流会イベント」と追記しました。

	地方創生会議や行政常任委員会の意見	担当課	対 応
P41	企業に支援してもらえる環境というよりは、継続的に企業から支援をうける環境のように表現を変えてはどうか。	政策調整課	「持続的に企業から支援を受けられるような環境を整えます。」と修正しました。
P43	スケジュールでは令和4年度が抜けているが、令和4年度からスタートできないのか。検討や準備するならそういうスケジュールを。	福祉保健課	スケジュールを修正しました。
	不妊治療の費用の補助の話があったが、重要なので、38ページに記載できないか。	福祉保健課	一部経過措置が残るがR4年度から保険適応され、変換期であるため記載は見送りたいと考えています。
P45	KPIで、未就園の3歳未満の地域子育て支援センターの利用率は%になっているが、全体で何名くらいいるのか。	福祉保健課	R2年度実績では、未就園の0～2歳の利用者は19人（19/138で13%）追記しました。
	このスケジュールに援助活動の充実とあり、令和4～令和8年とあり、事業の周知や講習会など書いているが、ずっと同じことをするのか、ブラッシュアップがあるのか。あるのであればそういう図式にしてほしい。	福祉保健課	新規の援助会員を養成したいため、援助会員になるために必要な内容の講習会（養成講習会）は、ほぼ同様の内容で毎年開催します。また、会員同士の交流会の内容については都度テーマを決めながら行っていきます。 【計画記載事項の変更なし】
P45～	養子縁組・里子制度についての施策ができないか。少子化対策を全面的に押し出す必要があるのではないか。	福祉保健課	児童福祉の観点からも里親制度は重要な施策であり、制度の普及や体制の整備は必要不可欠であるが、この地域にはまだまだ里親制度を支える土壌ができておりません。 また、里親は家庭での養育が困難な子ども等に温かい愛情と正しい理解をもった家庭環境の下で養育する制度であり、子どもの健やかな成長を第一に考え、子どもの状況やペースに合わせて調整、支援を進めることが重要であるとの考えから、本市では、里親制度による少子化対策として総合戦略への記載は見送りたいと考えております。【計画記載事項の変更なし】
	大きくなった子どもへの支援が無いのではないか。	福祉保健課	福祉の管轄の支援としては、 ・小学生：放課後児童クラブやファミリーサポートの利用、児童手当、医療費助成等の給付等 ・中学生：児童手当、子ども医療費等 ・思春期教室（いのちの教室）：小中学生を対象に生命の大切さ、性に対する教育など教室を実施 教育部門では、大学、短期大学、高等学校等に在学する者に対する奨学金貸与事業（U）Iターンの推進として、奨学金の返還免除制度の利用促進の施策を記載しています。
P47	KPI妊婦への情報冊子配布については、基準値、目標値ともに100%はKPIとしてはどうか	福祉保健課	「子育て支援情報冊子認知度」に修正しました。
P50	無料でできる健診に力を入れるように強く書いていただければと思う。特定健診、尾鷲市は受ける人が少ないようなので、強く書いてほしい。健康づくりは特定健診の受診率の向上を目指し、健康増進の推進が必要だということの記載をお願いしたい。	福祉保健課・市民サービス課	「がん検診等の重要性を周知し、受診勧奨を図るとともに、特定健診時の自己負担額の無料化や集団特定健診の実施、効果的な受診勧奨及び紀北医師会との連携等により、受診率の向上を図ります。」と修正しました。
P52	生きづらさや貧困に対する重層的な取り組みは掲載しないのか。障がい者福祉の推進も追加できないか。子どもの問題や全体的な問題になるので検討を。	福祉保健課	「多様化・複雑化する課題に対応するため、高齢者や障がい、生活困窮といった分野を越え、横断的に対応できる体制を充実させます。個人が抱える課題や状況に応じて、関係機関がその専門性を活かし、ケア会議等を通じて支援に繋げるなど、自立した生活へのサポートを行います。」と追記しました。
P56・57	ふれあいバスの利用者満足度の数字が分かりにくい。	政策調整課	5.00までの5段階での満足度に修正しました
	新たな技術についていきなりAIとかキャッシュレス化はむずかしいのでは。1つでも実現できるものを記載してはどうか。	政策調整課	MaaSの基礎となる「標準的なバス情報フォーマット」（通称GTFS）への対応を記載しました。
	スマホの利用した行政サービスをまず浸透させるとか、身近なところからはじめては。インバウンド多言語化を入れてはどうか。	政策調整課	「東紀州地域振興公社や紀伊半島外国人観光客受入推進協議会、交通事業者などとも連携し、バス停の多言語表記などのインバウンドに対応した取り組みも推進します。」と追記しました。
P58	着地型観光のところで、セラピスト同行ツアーは市が実施しますという事か。観光物産協会か。	商工観光課	「尾鷲ならではの自然や歴史、尾鷲の「食」を活用した尾鷲観光物産協会が実施する体験メニューツアー、熊野古道やまち歩きの際のセラピスト同行ツアーに協力するなど、関係団体等と連携し、支援することによって」と修正しました

	地方創生会議や行政常任委員会の意見	担当課	対応
P59	KPIの追加で、着地型観光とか維持保全活動とかを書かれているが、草刈りとかの維持活動に参加した人数とか、イベントの回数、整備の箇所とかをKPIにできないのか。	商工観光課	KPIに維持保全活動の実施回数を追加しました。
	目的があって手法として結果、委託するとか指定管理する結果となっているだけであって。委託します、運営しますという語尾はやめた方がいいのではないか。	商工観光課	「行います。」と修正しました。
P60	広域的に観光誘客を進めますとあるが、具体的に記載した方がいいのでは。	商工観光課	該当箇所を全体的に見直し修正しました。
P62	KPIでは体験メニュー回数となっているが、体験メニュー数ならわかるが、回数というのはわからない。メニュー数なら、「数」と直したほうが良い。旅マエならHPの閲覧回数とかはKPIにいれられないのか。	商工観光課	KPIを尾鷲体験メニューの開催回数とし、尾鷲市公式HPの観光情報のページビュー数を追加しました。
	以前にも意見があった教育環境の充実という項目は入れたほうが良いのではないか。	教育総務課	学校教育において「教育環境の充実」は大切な項目であります。今回の計画では人口減少対策として戦略的に取り組む項目としましては、基本目標2「繋がりを築き、新しい流れをつくる」の中の(1)移住・定住の推進として、「地域に開かれた学校づくり」を「尾鷲高校まちいく」と合わせて実施することにより、地域と連携・協働した教育活動を充実させて、子どもたちの地域への愛着と誇りを育成していくことを記載しております。
	医療の関係での記載はないのか、であれば病院として不妊治療に取り組んでほしいがどうか。	総合病院	産婦人科の医師が2人となって、これから出来ることについては検討していきます。
	看護師不足ということで、病院も苦慮している中で、市として取り組むことが必要ではないか。	政策調整課	奨学金制度については、活用の上で地元に戻ってくるための1つのきっかけとしてありますが、医療関係や一般事業所への就業の課題と捉えて、進めていきたいと考えています。
	用語解説が必要。関連事業や記載のある市の施設についても説明を。	政策調整課	巻末に用語集を追加しました。
	KPIもわかりにくい、内容と出典とを分けて記載を。	政策調整課	KPIに説明欄を設けました。